

第3回推進会議結果のまとめ

11月21日（月）に行われた第3回南三陸町復興計画推進会議のグループ討議結果をご報告します。今回は、グループC、グループB、グループAの順に発表がありました。



1. 各グループの討議結果

1) グループCの発表内容（要旨）

1. 暮らし、住まう、食す

- ・ 自分の暮らす城を構築できて心のゆとりができ外から来る人をもてなせる。
- ・ 今後、災害公営や防集事業で高台に移っても、コミュニティがきっちりつながる仕組みづくりが大事である。
- ・ 食に関しては、海が豊かなので海の幸をきっちり大事にしていく。

2. 自然、風景、歴史

- ・ 町境が分水嶺になっており、町の自然豊かな森で育まれた水が川を伝って海に流れていくという地形になっており、アドバンテージとして高い。
- ・ 湾内に流れる水が豊かな魚や貝など生産物にもつながるので、海と山がつながるコンパクトな地形を大事にしていく。
- ・ 海に携わる方々と森で林業を営まれている方々が、ブナの木を植林するというつながりを持っており、海と山を大事にしてきた文化があった。
- ・ 子供のころの原体験として記憶に残っているものとして「志津川中学からの海を望むきれいな夜景、神割崎、うたちゃん橋、伊里前の神社からの街並み」がある。
- ・ 文化という視点では、「志津川の夏祭り、入谷の9月15日に開催される定例のお祭り。志津川湾の夏祭り、七福神祭り」がある。

3. なりわい、つながり、人づくり

- ・ 歌津では、海友会という漁師のOB約70人でつくる組織により民泊と体験学習が営まれていた。生活の基盤ができた段階でその組織を復活させ、今後の人づくり、つながりづくりにつなげたい。
- ・ 芝刈りとか維持管理をすれば無料で施設が使える仕組みづくりが大事である。

4. その他

- ・ 震災で壊れた松原海岸を海の遺構として残してほしい。
- ・ Uターン、Iターンの仕組みを作り、少しずつ積み上げてリピーターを増やす。
- ・ 海と山が一体となった地形、子供のころに体験した南三陸やその風景、昔、子供のころにあったお祭りをきっちり残していきたい。

(注) 朱書きは事務局がキーワードと考えたものです。

第3回推進会議南三陸の魅力書き込みシート<グループC>

1.暮らし、住まう、食すなど

- ・男(みんな)の城 (キッチンとしたベースキャンプ) (ができて人をもてなせる)
- ・みんなの町⇔南三陸町
- ・どのような方も暮らせる公営住宅
公営住宅⇔福祉避難所 (隣組)

2. 自然、風景、歴史文化など

- ・地形 (分水嶺の町)
- ・志津川湾内は希少価値生物宝庫 海と山の一体化、安心と安全
- ・夏祭り (七福神祭り)、入谷の祭り
- ・自然がコンパクトにまとまっている
- ・震災前の情景の再発見
- ・植林 (ブナの木) ①
- ・夢に出てくる情景 (R45より海に向かう景色: 黒崎) ②
- ・志津川湾夏祭り⇔荒嶋、海上③
- ・「これぞ、南三陸の景色」
A: 志津川中から海/B: うたちゃん橋/C: 神割崎/D: 伊里前神社から市外
(※①～③、A～Dの位置は魅力書き込みマップを参照)
- ・地名の魅力 (津、志津川)

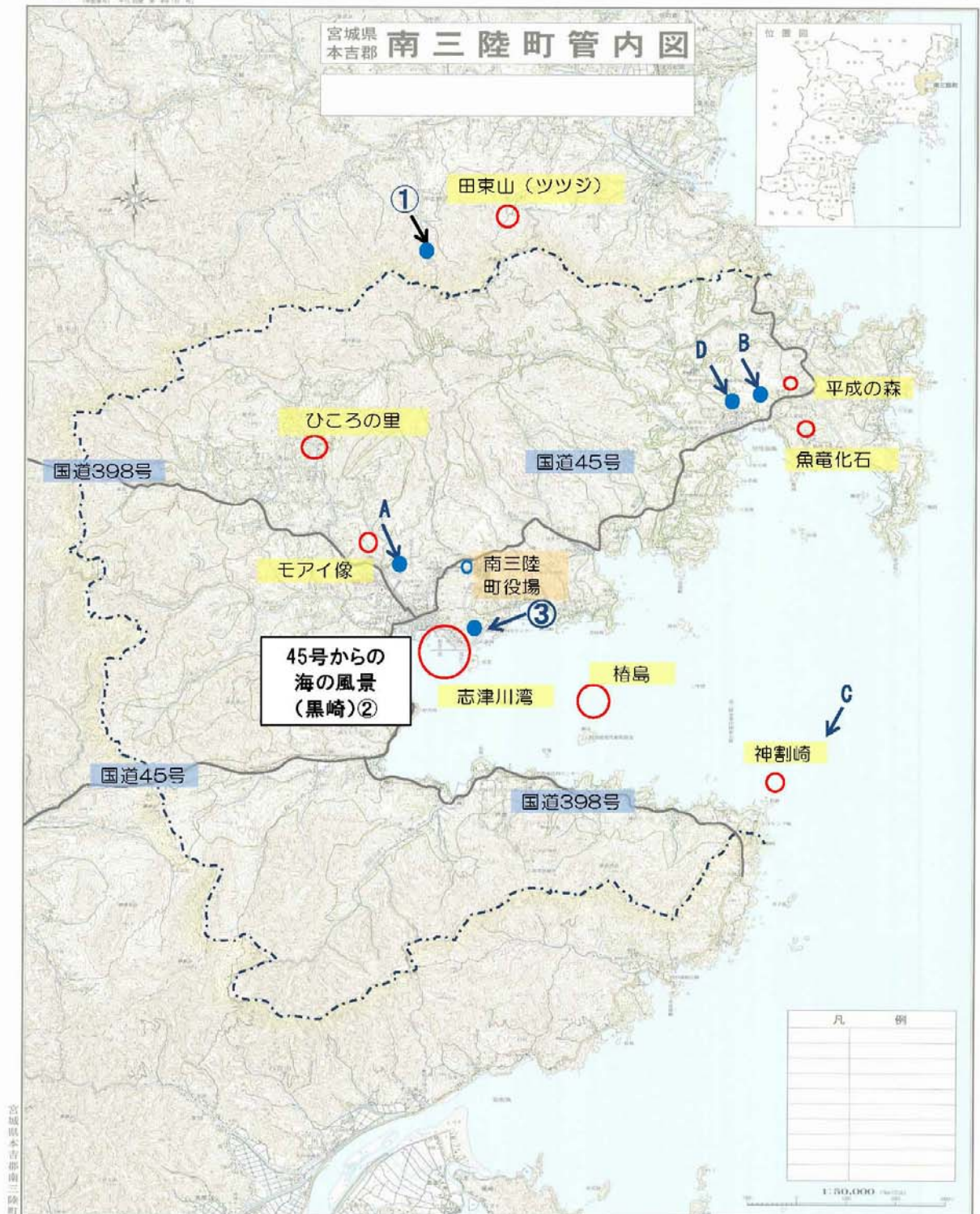
3. なりわい、つながり、人など

- ・原住民の生活→必要最小限の充足 (医、職、自由)
- ・体験学習 (民泊での農体験、漁体験) /ふるさと学習会 (体験)
- ・グリーンツーリズム→農 海友会→漁 (地元の子供たちにも体験させたい)
- ・勤労をうまく使う (草刈りをするとゲートボール場使用OK)
- ・定年後の方が働ける (ハーフタイム) システム
- ・海友会 (職のつながりで出来ること60～73名) (小地域での良さを掘り起こす)
- ・ダイビング→民泊 ・イベント交流 (スポーツ、図書館)
- ・自然体験が身近で出来る (サケの養殖)
- ・「娯楽」が必要 (グランドゴルフetc)
- ・例: 分炭、木炭 (エネルギー活用)

4. その他

- ・震災で壊れたモノ残す覚悟 (松原海岸)
- ・志津川高校を商業 (実業) にH. S
- ・遺構は遺構として、残せるものは残す・
- ・地域の整備を通しての地域貢献→魅力の再発掘
- ・Uターン、Iターンの仕組み作り ⇔少しずつ積み上げてリピーターを増やす

第3回推進会議南三陸の魅力書き込みマップ<グループC>



2) グループBの発表内容(要旨)

1. 暮らし、住まう、食す

- ・前は、お茶っこ飲み会だとか自家製の漬物持ってきてみんなでコミュニケーションをとっていた。
- ・水産物、海の幸などの資源に恵まれている。
- ・南三陸はちょうどいいサイズで、山、川、海、里山のバランスがいい。
- ・恵まれた資源を活かした食べ物として、「海苔の福耳、タラバーガー」など意外と地元の方が知らずに外の方が知っているものもある。
- ・有名なきらきら丼もあるし、「(今は食べられないが)ときわ屋さんの冷やし中華」がとてもおいしかった。地元で愛され根付いていた食があった。



2. 自然、風景、歴史

- ・もともとやっていた夏祭り、灯籠流しを復活させたい。
- ・海水浴場の復活を望む。
- ・今まで伝わってきた文化を子供達や将来に向かって届けていくのも大事だ。
- ・津波は非常に嫌だが、逆に言うと海というのが魅力になっていた。
- ・食のところにあるメカブなどの地元産が大事で、学校給食でもこれは戸倉産ですと紹介しており、子供もここで採れたんだ、というのを感じている。

3. なりわい、つながり、人

- ・松原公園は子供が部活動をしたり、おじいちゃん、おばあちゃんがゲートボールをしたり、小さなお子さんからお年寄りまでが一緒に集える場所と文化があったのが大きい魅力だった。
- ・お茶っこ飲みなどのつながり、復興市など新しい祭りやイベント、いろんな地元の伝統行事、志津川の夏祭り、入谷の秋祭りなど伝統をつちかしてきたものがある。
- ・入谷に地元の食材や地元を売り出していこうというアイディアマンがいた。
- ・外から南三陸に来た人のつながりということで「婿(むこ)の会」というのがあった。もともとあった地域のつながりに加え、いろんな外の方のつながり、外から支援できている人を受け入れる土壌がある。
- ・南三陸の人柄の良さと方言がよい。鮭のように人にも戻ってきてほしい。

4. その他

- ・震災前の町の姿を何らかの形で残していきたい。たとえばヴァーチャルでも良い。
- ・松原公園など運動する場所が今無いのが課題である。
- ・魚竜館、松原公園、潮風カフェなどを復活してほしい。

第3回推進会議南三陸の魅力書き込みシート<グループB>

1.暮らし、住まう、食すなど

- ・お茶っこ飲み（自家製の漬物で）
- ・水産業、海の幸（豊富な資源種類）
- ・落ち着いた住環境（四季に応じた）
- ・町の規模がちょうどいいサイズ
- ・自給自足が可能
- ・山、川、海のバランスが良い
- ・里山
- ・ヤマウチさんのタラバーガー/しおさいさんの黒酢からあげ/のりの福耳
- ・おいしかったときわ屋さんの冷やし中華→キラキラ丼にもつながる
- ・めかぶなど地元の食を大事に
(イヤなことと表裏一体の魅力)
(魅力) 自分で生産する⇔(イヤ) 買い物が不便
(魅力) 高校、病院が揃っている⇔職場は？

2. 自然、風景、歴史文化など

- ・伝承文化（子供たちに伝えていくべきもの）
- ・自然の恵み（生かされている私たち）
- ・夏祭りの復活/海水浴場の復活
- ・役場の先、海が開けたところの景色
(イヤなことと表裏一体の魅力)
(魅力) 海がある⇔(イヤ) 津波

3. なりわい、つながり、人など

<グループB>

- ・子供～お年寄りまで集える場所/地元意識が高い（助け合い）（地域で見守る）
- ・地域特有のつながり、コミュニケーション
- ・ムコの会（志津川以外の人）
- ・教育活動（PTA）（子供のために）
- ・子供の学習環境（ちょうど良い種類、サイズ）
- ・復興市、地元の伝統行事/入谷などに発明家が多い
- ・人柄の良さ、ほっとする方言がある
- ・外から来た人が（快く）受け入れてもらえる土壌がある。
(イヤなことと表裏一体の魅力)
(魅力) 人と人とのつながりが濃い⇔(イヤ) おせっかい

4. その他

- ・(模型やヴァーチャルなもので良いので) 震災前の町の形も残したい
- ・運動する場所が欲しい（今は震災前の半分の運動量になっている）
- ・鮭が戻るように、人にも南三陸に戻ってきてほしい

3) グループAの発表内容（要旨）

1. 暮らし、住まう、食す

- ・多くの家にあり生活の中心になっていた「井戸」を防災のためにも復活したい。
- ・南三陸町共通のたらすもづ（誰もが食べたお母さんが作ってくれたおやき）やめかぶ、南三陸町の風情となる魚屋さんの軒につるされたゆでだこ。
- ・入谷のほうで多い自然食、イチジクのワイン煮、こんにゃく、干し柿、味噌、漬物など手作りの文化がある。また、入谷のかやぶきの屋敷も魅力がある。
- ・用は無くても隣にお茶飲みに行き、漬物食べて町の話をして、孫の話をするお茶っこ文化により、地域のコミュニケーションが成りたっていた。
- ・30分ぐらいのエリアの中で森、川、海にさわれる町、森里海のつながりが暮らしながら学べるのが南三陸町ならの良さと思う。



2. 自然、風景、歴史

- ・冬の川を上る鮭を見る子供たちの姿、春の伊里前川を上る白魚を見る子供の姿など風景と人間が一体となっている光景や川遊び、シロサギが川に佇む風景、長須賀海岸、田東山、魚竜太鼓、岬と入り江が交互に見えるリアス地形などが魅力である。
- ・ガラスの浮き球など、美術品のように美しい道具がある。
- ・町には椿島があるが、昔は椿の油締めなど椿と関係する文化があった。
- ・本浜はもともと浜。もっと先は沖の須賀で海。これから盛土をする汐見、タコがひっかかっていたタコ沢など先人が表した前の津波、教訓を受け継ぐ必要がある。
- ・潮風が香る町。海の生き物を「海の友達がいるよ」と発信していきたい。

3. なりわい、つながり、人

- ・おさかな通りで季節ごとに祭をやり、協力していた中学生が避難所生活を支えた。
- ・知らない人に、「あんだどこからきたのっしや」という声が自然とかかる町だった。
- ・町を一度離れてもまた戻ってくる人間を堂々と育てる鮭的人材育成をする。
- ・五～六千円でたくさんの船盛が食べられる民宿を復活したい。

4. その他

- ・誰かが方言で話してくれる会議は話しやすくなるし、震災直後に方言を聞いて少し心が安らいたので、南三陸町の方言を活かしていきたい。
- ・漁師さんの紐の括り方などの知恵とか工夫、この南三陸町のことを網羅する町民憲章、森、里、海、人の命全てを学べることを大事にしたい。
- ・お父さんたちの世代が裸で遊んだ小松原などの原風景を今の子供達に残す。
- ・松原の壊れた防潮堤、海側に蘇った磯を合わせて多くのものを物語る遺構となる。
- ・前に、篝火祭りをしていたとても美しい曲線の中橋の復活を望む

第3回推進会議南三陸の魅力書き込みシート<グループA>

1. 暮らし、住まう、食すなど

暮らし

食す

住まう

- ・おさかな通り / ・蔵造りの屋敷（五日町、十日町）
- ・井戸（防災のため復活している傾向 / ・かやぶきの屋敷
- ・イチヂク（ワイン、てんぷら） / ・こんにやく
- ・たらすもづ / ・めかぶ（井にして売ってほしい）
- ・軒先に吊るしたゆでだこ / ・入谷のおまんじゅう / ・干し柿 / ・みそ
- ・漬物 / ・自然食品（ふき、いちじく（ワイン、てんぷら））
- ・触れる森川海が近くにあった・森里海の連関学を暮しながら学べる
- ・お茶っこ文化（入谷が多い）

2. 自然、風景、歴史文化など

自然

道具・文化

風景

- ・冬の川を上る鮭を見る子供たち / ・春の伊里前川を上るシラウオ
- ・橋の欄干に留まっているカモメ / ・八幡川にたたずむ白サギ
- ・川遊び / ・長須賀海岸（海水浴場）
- ・田東山（修行僧、ツツジ） / ・自然の水（飲める）
- ・ガラスの浮き玉・いしやり / ・樺島と樺文化 獅子踊り（戸倉）
- ・お茶会（山頂で） / ・魚竜ダイコ
- ・リアス式の地形（岬と入り江が交互にある）
- ・地名に刻まれた町の歴史（本浜、汐見、田子沢、残舎、大船、三人立、廻館、etc）→ジオパークにできる地域
- ・海の友達（ダンゴウオ、ウミクワガタ、クチバシカジカ、クモヒト

3. なりわい、つながり、人など

なりわい
つながり

祭

- ・サケの稚魚の放流を学ぶ子供たち（地域を知る機会）
- ・季節毎の催し物に協力する中学生（役割）→鮭的人材育成
- ・小さい港町ならではの声の掛け合い
- ・津波に負けなかった樺
- ・昔ながらの伝統祭り（歌津：こいこい祭り、入谷：うちばやし）
- ・かがり火まつり / ・天狗と歩く秋の祭りの稚児行列 / ・トコヤッサイ

4. その他

- ・方言のあったかみ（高齢者の活躍の場）
→方言は津波でも流されない
- ・漁師の工夫、知恵 / ・町民憲章に刻んだ思い / ・神棚を祀る精神
- ・様々な命を学べる場所

第3回推進会議南三陸の魅力書き込みマップ<グループA>



2. 学識者委員・有識者委員の講評ととりまとめ

グループ発表をもとに、学識者委員、有識者委員の皆さんからアドバイスをいただき、次のようにまとめていただきました。

① 平野副委員長

- ・ 今日あげられた魅力は生活している皆さんだからこそ見える「生活景」であり、仮設住宅から出て生活が落ち着いて本当のまちづくりが始まると思う。
- ・ 人間は風景を道から感じるのので、これから作る新しいまちの道から皆さんの大事にしている景色が見えるかどうか、行政の方にチェックしてほしい。
- ・ 南三陸に帰りたくなるような郷愁を誘う魅力の情報発信を戦略的にやるべきで、次のテーマになると思う。
- ・ 皆さんのあげた生活景をもとに上手に戦略を考えるとよいと思う。

② 三浦先生

- ・ 地域の問題を観光で解決するためには、第1次産業の活性化、商業の活性化、環境の改善、高齢の方々を元気にすることが4つの柱となる。
- ・ 今の観光は、80年代、90年代と大きく変わり、まちを歩くとか生活を見たいというように変わっているが、南三陸町は、海、山、里山、川の景観、環境、祭の魅力、おさかな通り、蔵などがありまち歩きに適したまちづくりができると感じる。
- ・ 志津川、歌津、戸倉、入谷地区それぞれの魅力を発掘し、仮設住宅の方にも共有しながら一つずつ魅力付けをしていただきたい。

③ 稲葉先生

- ・ お茶っこのみが南三陸の原点と思う。震災前に民泊が盛んな頃、南三陸のおじいちゃん、おばあちゃんに会いたくて泊まっていた子供達だけで来たことがあった。
- ・ 南三陸は自然の風景もいいし食べ物もおいしいが、その良さは、「町の人すべてが話してくれるような温かさ」だと思ふし、これで売り出していくのが良いと思う。

④ 宮原委員長

- ・ 平成14年に学生たちと南三陸町の観光資源調査をやったが、今日の皆さんのお話を伺うと、大切なこと（魅力）を失っていないと思う。
- ・ 皆さんが大事にしていた生活を受け継ぎ、大好きだった町の形を取り戻そうと懸命に動いておられることが改めてわかり、いろいろな人との共有が大事と感じた。
- ・ 南三陸町の「ほっとけない文化」が大きな魅力となっている。
- ・ 次回は、平野先生にいただいたヒントや「鮭のような人材育成」というキーワードをもとに、「(この魅力を) 具体的にこうしましょう」という話をしていきたい。